

# 令和7年度 教育事業「SDGs親子ぼうさいフェスティバル」

- 1 趣 旨 防災や減災に関する活動や、被災時の生活体験、災害時の応急対策活動の体験、要支援者の視点からの災害対応、多様性への配慮、自助・共助・公助による生きる力を学ぶ機会を提供する。そして、これらの体験をととして持続可能な開発のための教育（ESD）に寄与する。

また、文部科学省「子供の体験活動推進宣言」（令和4年）の実現に向けて、官民が連携し、子供の体験の機会を提供する。

- 2 期 日 令和7年11月29日（土）

- 3 対 象 者 親子（家族）、防災関連従事者、防災や体験活動に興味・関心がある方

- 4 募集人数 400人（来場者748人）

- 5 後 援 鹿児島県、鹿児島県教育委員会、鹿屋市、垂水市、鹿屋市教育委員会、垂水市教育委員会  
国立大学法人鹿屋体育大学、MBC南日本放送、南日本新聞社、九州地方ESD活動支援センター



<救命救急体験>

- 6 協力団体 JAL日本航空株式会社、大塚製薬株式会社、株式会社サクラクレパス九州営業所、シャボン玉石けん株式会社、損害保険ジャパン株式会社鹿児島支店  
三菱電機株式会社鹿児島営業所、東京海上日動火災保険株式会社鹿児島支店、日本電気通信事業株式会社スマサポplus、合同会社シルナベース  
win win win、みやび商事、特定非営利活動法人グランシーハーツ、MBC南日本放送、国土交通省大隅河川国道事務所、海上自衛隊鹿屋航空基地  
第一幼児教育短期大学こどもSDGs研究会、株式会社KAGO食スポーツ、株式会社オキス、気象庁鹿児島地方気象台、KR（鹿屋レスキュー）  
一般社団法人日本気象予報士会鹿児島支部、鹿屋市役所（安全安心課・健康増進課）、公益財団法人日本公衆電話会、宮崎県御池青少年自然の家  
国立鹿児島工業高等専門学校（都市環境デザイン工学科・物理科）、鹿児島県立鹿屋工業高等学校ケンチクラブ、日本赤十字社鹿児島支部  
NPO法人ローブリングかのや、鹿児島県アジア・太平洋農村研修センター、台湾文化交流会in鹿児島、ひとつぶcafé、おおすみこども食堂サロン  
鹿屋市こども食堂（細山田子ども食堂・みんなでわいわい子ども食堂）、鹿屋市ジュニア・リーダークラブ、おおすみくみん家族ボランティア  
絵本専門士かつぱときりんのつの文庫<sup>3</sup>、防災アンテナショップcafe+zakka茶花CHABANA

- 7 日 程

内 容	10:00～	12:00～	13:00～	15:00
体験・展示ブース	各フロア・プレイホール	昼食休憩	各フロア・プレイホール	終 了
イベント	避難所運営ゲーム公開実演	ぼうさい標語表彰式		

- 8 事業運営の配慮

- 雨天時でも実施できるように、ほとんどの出展ブースを屋内に配置した。
- 来場者の移動距離を軽減するため、昨年度よりブース配置場所をコンパクトにした。
- 遠方からの出展者も多いため、閉会式を取り止めて各ブースで解散・撤収できるようにした。



<災害時の口腔ケア>

- 9 参加者・協力団体の感想

- 昨年度よりブース内容が充実していて、大変よかった。（参加者）
- 「ぼうさい標語」では、親子で防災について考えるよい機会になった。（参加者）
- 県内の防災イベントでこれほどの集客は経験なかった。（協力団体）
- 防災への啓発活動の一助となれたと感じており、大変良かったと思う。（協力団体）

- 10 成果と課題（○成果 ●課題）

- 多くの団体から出展協力（40団体うち新規23）や協賛（寄附金・抽選会景品提供）をいただいた。
- 「ぼうさい標語」を募集した結果、8小学校から46名（68作品）の応募があり、表彰式を行った。
- 持続可能な事業運営（現職員の人数で、無理のない運営にしていける必要がある。）
- ぼうさい標語の表彰式における参観集客（お楽しみ抽選会前に実施するなどの工夫が必要である。）